

公立大学法人宮城大学の
業務の実績に関する評価結果
(令和 7 年度)

令和 8 年 9 月

公立大学法人宮城大学評価委員会

令和7年度 公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果

I 評価の方法

委員会による評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

なお、項目別評価は、業務実績報告書の様式に示す項目ごとに、その状況を次の5段階で評定することにより行う。

評定	評 定 項 目	判 断 の 目 安
S	特筆すべき進捗状況にある	委員会が特に認める場合
A	年度計画を順調に実施している	自己評価の評定がすべて「Ⅳ」又は「Ⅲ」
B	年度計画をおおむね順調に実施している	自己評価の評定で「Ⅳ」又は「Ⅲ」がおおむね90%以上
C	年度計画の実施にやや遅れがある	自己評価の評定で「Ⅳ」又は「Ⅲ」がおおむね90%未満
D	年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある	委員会が特に認める場合

II 項目別評価

(1) 評定の状況

項目	S 特筆すべき 進捗状況に ある	A 年度計画を 順調に実施 している	B 年度計画を おおむね順 調に実施し ている	C 年度計画の 実施にやや 遅れがある	D 年度計画の実 施が遅れてお り、重大な改善 事項がある	計
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 教育に関する目標を達成するための措置						
1		6	0	1	0	8
2 研究に関する目標を達成するための措置						
0		2	0	0	0	2
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置						
1		1	0	0	0	2
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		3	0	0	0	3
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		3	0	0	0	3
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置						
0		2	0	0	0	2
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置						
0		3	0	0	0	3
全体	2	20	0	1	0	23

(2) 項目別評価の具体的な内容について

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目No.1～4）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 広報活動や高大連携等の取り組みが効果的に機能し、入学希望者の増加につながった。入試システムの改善が適切に行われた。
- ・ 積極的な広報活動や高大連携事業の展開により、大学の認知を高め、出願者の確保のみならず第一志望入学者の割合目標を達成していることは評価できる。
- ・ 第一志望率が伸び、目標を上回ってきたことは評価できる。みやぎプレナースクールの取り組みや白石での出張オープンキャンパスなどは上記の内容に繋がっていると思われる。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.5～6）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」が90%未満であり、当委員会としては、年度計画の実施がやや不十分であると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学院の充足率については、どの大学も苦勞しているところであるが、目標の100%に対してはC評価とせざるを得ない。
- ・ 大学院学生の定員確保には至らなかったが、社会人進学者を対象とするリカレント教育の充実など、宮城大の将来像を想定した取り組みが進められたことは評価できる。
- ・ 社会人入学を地域（県市町村）から積極的に受け入れるためのインセンティブを考えてはどうか。大学理念（高度な実学と地域貢献）に繋がり、定員充足率が向上し、活力ある地域が形成される。期待を込めて「C」とする。

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目No.7～9）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ ディプロマ、カリキュラム・ポリシーの点検、改善が計画通りに進められ、また、各学群や新設予定の学群の教育体系が整備された。また、全学的に統一された基準で学生の学習状況を把握するシステムの構築は重要な成果である。
- ・ 認証評価の実地調査に適切に対応し評価基準適合との評価を受けた。地域連携型実践教育（アソシエイト）は年間12名（累計目標210名/6年に対し進捗管理を要確認）。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.10～12）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 各学群において博士前期・後期課程の教育内容や見直しが適切に進められた。看護学研究科においては、研究支援費の増額や宮城県との連携などを利用したりカレント教育の推進が効果的に進められた。
- ・ 学位論文審査プロセスの明示、教学アセスメントに基づく研究科ごとのカリキュラムマップ整備等、着実に実施されている。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 教育研究組織（法人自己評価項目No.13）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 大学として改革室を設置したことは高く評価できる。

ロ 教員・教員組織（法人自己評価項目No.14～16）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」または「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ FD・SDを積極的に行い、100%の参加が得られたことは、教職員のベクトルが同一方向を向くことが期待される。
- ・ 教員の採用、教員組織の編成、教員評価法の見直しなどが順調に進められた。教職員の能力向上への取り組みが計画通りに進められた。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

イ 学修支援（法人自己評価項目No.17～19）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ ラーニングコモンズを設置し、学生の修学を支援している。
- ・ 各種奨学金制度への紹介や、継続へ向けた学生への指導などきめ細かい体制が取られていることは高く評価できる。
- ・ 学生が、健康的に有意義な学生生活を送ることをサポートするための仕掛けが進められた。「楽しく夢のある大学」というイメージは重要であると考え

ロ キャリア形成支援（法人自己評価項目No.20～21）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 地域との連携など、学生のキャリア形成の支援が適切に行われた。就職率、国家試験合格率 100%達成は素晴らしい。

2 研究に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.22～24）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 研究成果発表や外部資金獲得のサポート体制の整備は予定以上に進捗した。地域と連携した教育・研究活動の推進という宮城大学の使命を考えると、外部資金申請や研究成果の評価を数値に頼りすぎなくてもよいのではないかと。
- ・ 資金獲得への積極的な取り組みのほか、各種フォーラム、イベントへの出展など積極的に実施している。

3 教育研究環境の整備に関する目標を達成するための措置

（法人自己評価項目No.25～27）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 実験実習器具更新98,165千円を計画的に執行。研究ジャーナル発行（DL5,651件）等、発信を継続している。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.28～31）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 各自治体との連携や、講師の派遣数は目標を大きく上回っている。
- ・ みやぎテレナース育成プログラム、DDX プログラム、食産業人材育成プログラムなど各学群のアクティビティが顕著であった。
- ・ 高校生、社会人、地域、自治体職員に向けたプログラムが充実しており、それぞれの取り組みを達成している。

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.32～33）

【**評定**】 **A** 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 地域課題をグローバルな視点で考察させるグローバル人材育成は良い視点。
- ・ グアム大学・トリノ大学・中原大学と新規協定締結。一方、海外派遣学生136人は目標200人を下回った。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

（法人自己評価項目No.34～35）

【**評定**】 **A** 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 内部監査室による監査チーム編成・実施、大学改革推進本部会議を月次開催している。

2 人事の適正化に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.36～37）

【**評定**】 **A** 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 公募による事務職員採用（2名）、人事異動方針に基づく適正配置を実施している。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

（法人自己評価項目No.38）

【**評定**】 **A** 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 東北大学DX推進プロジェクトへの参加、庶務事務のペーパーレス化を推進し

ている。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.39～40)

【**評定**】A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 学生納付金は予算額を上回る実績。学内施設貸付94件を実施して有効活用ができています。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.41)

【**評定**】A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 契約審査システム等の導入により業務合理化・コスト削減を推進している。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.42)

【**評定**】A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【**評定に当たっての意見等**】

- ・ 固定資産の保守点検管理の適切な運営および資金流動性を重視した預金運用を継続している。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.43～44)

【**評定**】A 年度計画を順調に実施している。

【**評定の理由**】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」で

あり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 認証評価実地調査2回に適切に対応し評価基準に適合している。内部質保証システムに基づく自己点検を実施している。

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.45)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ SNS発信数 (X) が約9,600件→約13,000件に増加するなど情報発信を強化している。

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

(法人自己評価項目No.46)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 計画に基づく大規模修繕を実施している。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.47～48)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 防災訓練を実施した一方、個人情報漏えい事故が2件発生 (目標0件)。原因分析と再発防止策の実効性を確認する必要がある。

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 (法人自己評価項目No.49)

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」で

あり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 人権侵害防止対策本部の運営、リーフレット配付等を実施。ハラスメント申立て1件について事実確認をおこなったとあるが、事実確認の結果および対応状況の確認を要する。

【法人の自己評価における特記事項に関する意見等】

（教育について）

- ・ 高大連携の強化が効果的に進められ、宮城大の魅力を伝えることができたと評価できる。様々な情報管理におけるDX化が進められた。課題の大学院定員については、リカレント教育の充実という観点からの取り組みがなされており、宮城県の発展に対する貴学の貢献という観点からも意義深い。大学院学生の確保だけではなく国際化の推進にも直結することから、奨学金支給など留学生の確保にさらに積極的に努めてはどうか。
- ・ 魅力ある県立大学として、高校生へのアプローチがうまくいっていると感じる。

（研究及び教育研究環境の整備について）

- ・ 外部資金獲得状況を一元管理できるアプリケーションの構築が今後の伸びにつながることに期待している。
- ・ 「ポストアワード体制」で研究費受入の事務処理の補佐をすることにより、研究時間を多く取れるよう支援しているのは良い。「宮城大学研究・共創フォーラム」も、地元との協調が取れて良い。
- ・ 外部資金獲得に向けた取り組みは評価できる。その一方で、宮城大の特色にマッチした外部資金に的を絞ることにより、教員の負担を軽減し応募の精度を上げることができるのではないかと。他の県立大学などと協調し、地域振興を担う大学をサポートする外部資金の増加を要望してはどうか。

（地域貢献及び国際交流について）

- ・ 宮城大学は地元との繋がりが大きく、研究シーズを活用して地元企業の支援などを行なっている。また連携自治体への委員派遣などを行なっている。
- ・ 地域との連携が活発に進められ、地域の発展に貢献した。国際交流も様々な地域を対象に活発に行われた。ウェブサイトの活用も効果的であった。今後、広く県民に宮城大をアピールするために、県庁ロビーに宮城大紹介コーナーを設置してはどうか。留学生の増加は国際化推進と大学院生の確保の両面において効果的ではないか。国際交流＝英語の習得とならないように、AIなどを活用し英語力が律速とならないような工夫ができないだろうか。

(業務運営及び財務内容、その他について)

- ・ 内部監査の充実強化を図っている。
- ・ 課題解決枠の設定は、前向きな予算措置として評価できる。
- ・ 一体感のある広報ツールなどは非常に重要な取り組みであると評価する。高校生など入学候補者、リカレント教育対象者、地域連携に関わる人々など各対象に効果的な内容を充実させてほしい。
- ・ クマへの対策という業務が増えている。

Ⅲ 全体評価

- 学校教育法による評価基準を満たし、安定した経営状態になっている。
- 高大連携による事業を複合的に行っていることから志願率も増加してと思われる。
更なる取組を期待する。
- 創立理念である、高度な実学と地域社会の課題解決への貢献を、県内自治体からの大学院生を呼び込む事によって同時に解決出来るのではないか。大学、県、地方自治体3者で話し合いの場を設けてはどうか。

まとめ

法人による自己評価においては、法人自己評価49項目中4項目において「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」、44項目において「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」、1項目について「Ⅱ 年度計画を十分に実施していない」とされている。

当委員会としては、法人の令和7年度業務の実績について、項目別評価の結果も踏まえ審議した結果、全体としては年度計画を順調に実施しているものと評価する。

令和7年度は、積極的な広報活動や高大連携事業の展開により、大学の認知を高め、宮城大学を第一志望とする意欲ある学生の獲得に成功した。また、多くの地方自治体・地域企業と連携して交流事業や共同研究を実施したことや、市町村等への委員・講師の派遣など、地域貢献に向けた取り組みが積極的に行われた点を評価する。

一方、大学院課程の定員については、試験方法の見直しや入試広報の推進など、学生確保の工夫が見られるものの、充足率が目標を下回る状況が続いており、引き続き適切な検討を行い、中長期計画の中で達成することが望まれる。

急速に少子化が進行する中、将来にわたって持続可能な社会を実現するために、宮城大学には、地域に根ざした教育・研究・社会貢献活動の拠点として、他のモデルとなるような取り組みを地域と共に構築することを期待したい。